

1. 職業訓練指導員養成に関する現状

指導員養成に対する指摘

行政刷新会議事業仕分け、省内仕分け、会計検査院等

① 養成課程における指導員就職が低いこと

当時（平成17～21年）の指導員就職率は8%～41%

② 4年の養成期間が長期であること

当時の養成課程については、高等学校卒業生等に対して4年のカリキュラムで実施

養成課程等の見直し (平成26年度～)

職業訓練指導員希望者に限った課程の創設

① 長期養成課程

→ 4年課程を廃止し、**最大2年**の長期間の養成課程

② 短期養成課程

→ 民間企業等の実務経験に応じた短期間の養成課程

職業訓練指導員の基礎となる技能・技術等を習得

○ 総合課程

→ 指導員養成課程とは別に学位取得を可能とする課程

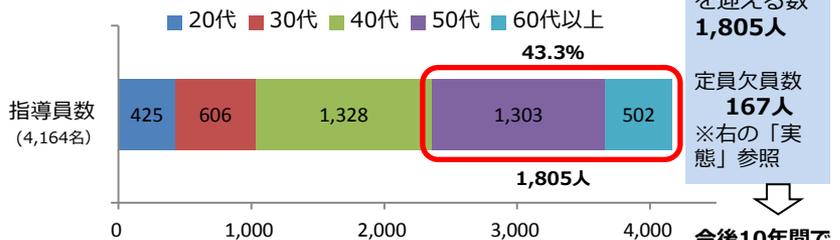
実績

4年間
268人^{※1}

※1 平成26年度～平成29年度の長期養成課程・短期養成課程修了生（平成29年度は見込）

2. 職業訓練指導員養成に関する今後の課題

・ 職業訓練指導員^{※2}の年齢構成（平成28年度）



※2 都道府県及び(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構が設置する職業能力開発施設に勤務して職業訓練を担当している者。（認定訓練施設や矯正施設の職業訓練指導員を除く）

10年で定年を迎える数
1,805人

定員欠員数
167人
※右の「実態」参照

今後10年間で
約2,000人確保

今後は供給不足

課題

今後10年で約2,000人の安定確保

質の高い人材の育成

早期の現場配置

実態

募集に対する充足率
約75% (未充足数167人)
(686名募集519名採用(H26～28年度実績))

訓練職種によっては複数年採用
(応募) なし

人材育成施策の展開 (職業訓練指導員確保の重要性)

○ 働き方改革の推進や人材育成の強化等を通じた労働環境の整備・生産性の向上

- ・ 第4次産業革命に対応した人材育成
- ・ 生産性向上に資する企業内訓練等の推進

○ 女性、若者、障害者、高齢者等の多様な働き手の参画

- ・ 子育て女性や社会人のリカレント教育
- ・ 職場復帰の支援

職業訓練指導員の養成等に関する検討委員会（平成29年1月～9月）
(委員会メンバー：厚労省、都道府県及び機構)

検討事項

- ① 職業訓練指導員の認知度の向上
- ② 養成課程の検証及び見直しによる供給体制の整備
- ③ 職業訓練指導員免許に係る取得要件の見直し
- ④ 中長期的な職業訓練指導員の育成

職業訓練指導員の養成等に関する検討委員会

検討委員会における検討結果

検討結果に対する対応状況

検討委員会

委員会メンバー

- ・厚生労働省
- ・都道府県（福島県、千葉県、静岡県、佐賀県）
- ・（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構

課題

- 1 職業訓練指導員の安定確保
 - ・若年職業訓練指導員の安定的な確保
 - ・民間企業等の実務経験のある者の確保
- 2 質の高い職業訓練指導員の育成及び早期現場配置
 - ・スキルアップ訓練等の効果的な実施

検討事項

- ①職業訓練指導員の認知度の向上
- ②養成課程の検証及び見直しによる供給体制の整備
- ③職業訓練指導員免許に係る取得要件の見直し
- ④中長期的な職業訓練指導員の育成

検討事項①

職業訓練指導員情報総合サイトの開設

検討事項①

国・都道府県・機構が連携した職業訓練指導員の周知・広報活動の実施

検討事項②及び④

職業訓練指導員養成課程等の仕組みの見直し

検討事項③

職業訓練指導員免許の受験資格及び免除資格の拡大

【平成30年度予算措置】

- ・開設・運営は機構において実施予定
- ・機構に情報総合サイト運営委員会の設置予定
<掲載予定>
- ・職業訓練指導員紹介動画
- ・職業訓練指導員の活動情報
- ・各機関における募集情報や免許取得方法等

【運用による実施】

- ①ものづくりイベントへの紹介ブース設置
<実績>
 - ・若年者ものづくり競技大会（愛知）
 - ・技能五輪全国大会（栃木）
- ②企業等退職者に対する紹介活動
<実績>
 - ・自衛隊早期退職者に対する紹介
- ③大学に対する広報強化（就職部から教授まで）
- ④愛称・キャッチフレーズを活用した広報
<実績>
 - ・テクノインストラクター
～技で未来を切り開く～

【省令改正が必要な検討事項】

①職業訓練指導員養成課程等の仕組みの見直し

現行

総合課程、応用課程等、修了時に免許取得ができないこと（修了後、長期養成課程を受講）
長期養成課程において、専門課程担当までのレベルの指導員を養成することから現場配置に時間を要していること

【改正点】

- ・指導員養成課程の受講対象者の見直し
⇒総合課程在学中の短期養成課程の受講
- ・指導員養成期間の短縮
⇒普通課程担当者資格の創設

②職業訓練指導員免許の受験資格及び免除資格の拡大

現行

一部の指導員免許については、業界で広く認知されていない主要な資格が受験資格及び免除資格となっていない場合があり、免許が取りにくくなっていること

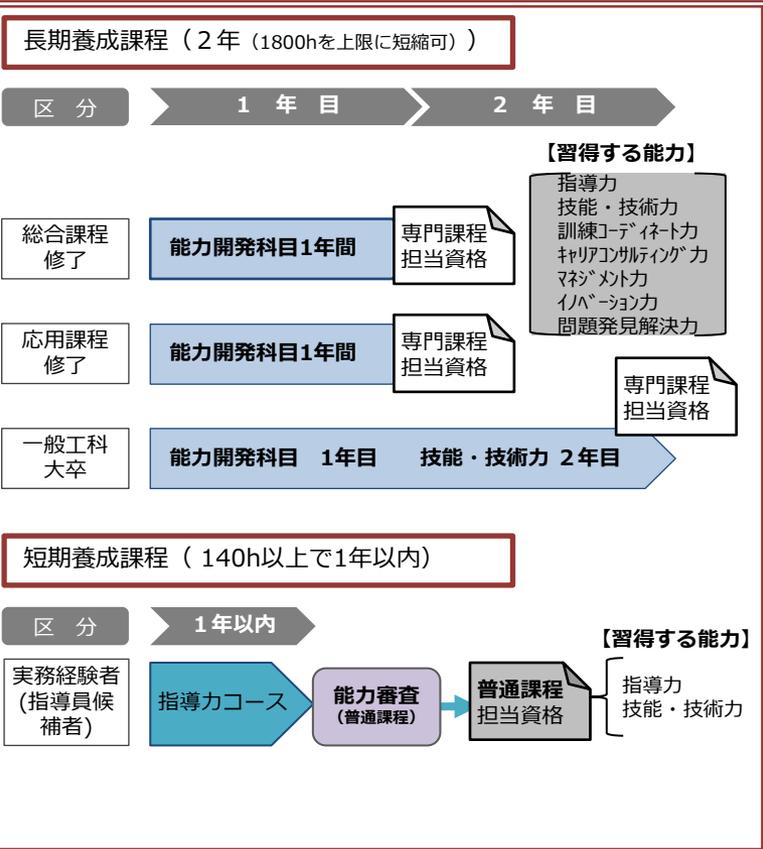
【改正点】

- ・業界で広く認知されており、職業訓練指導員に必要な技能が取得できる民間資格を新たに加えること

職業訓練指導員の養成等に関する検討概要及び方向性 (2 / 2)

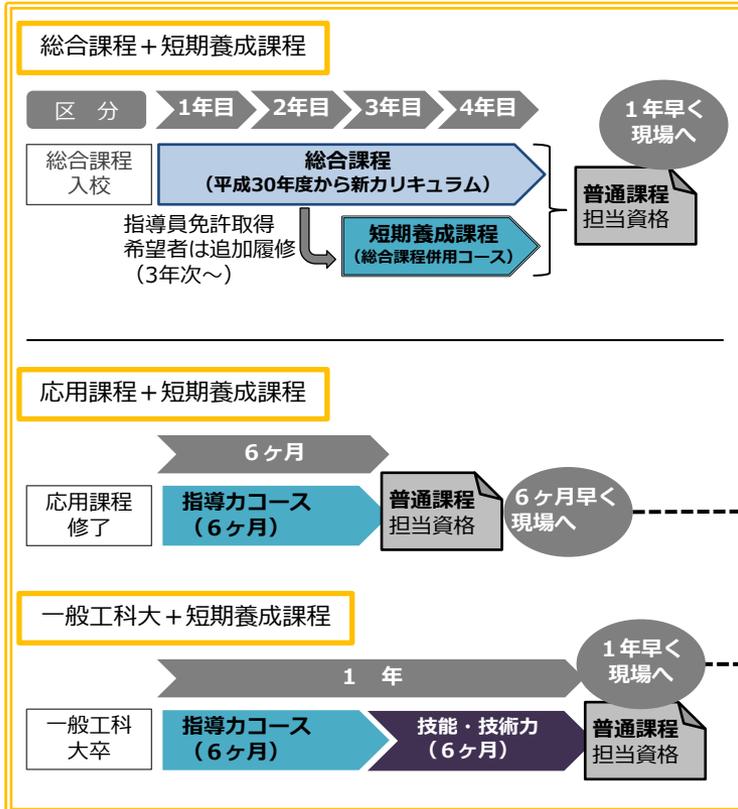
①職業訓練指導員養成課程等の仕組みの見直し

現状 (平成26年度改正)

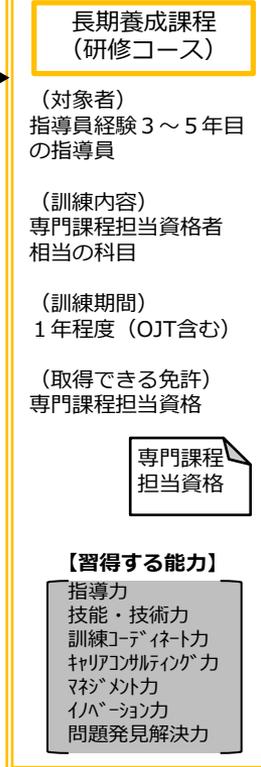


検討案 (平成31年度以降)

【短時間で若年指導員を養成する仕組み】

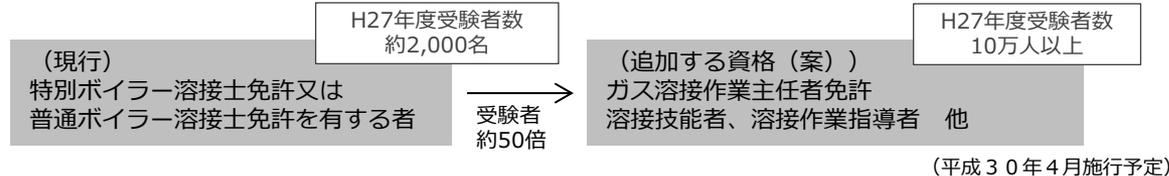


【現場経験のある指導員がスキルアップする仕組み】



②職業訓練指導員免許の受験資格及び免除資格の拡大

○指導員が不足している「溶接科」の指導員免許について、業界で広く認知されており、職業訓練指導員に必要な技能が取得できる民間資格を新たに加えることで指導員の安定的確保を図る



今後の予定

- 職業訓練指導員情報総合サイトの設計 (平成30年3月末迄)
- 短期養成課程の新たなコースについて、訓練カリキュラムの作成 (平成30年3月末迄)
- 省令改正に向けた準備



職業訓練指導員の愛称・キャッチコピー決定！

愛称

「テクノインストラクター」

キャッチコピー

～技で未来を切り開く～

厚生労働省 テクノインストラクター

検索

厚生労働省からの情報提供

テクノインストラクター（職業訓練指導員）のご説明！！

テクノインストラクター（職業訓練指導員）とは

テクノインストラクターの仕事紹介

これから働く方、既に働いている方、離職して再就職を目指している方などに対して、技能・技術の指導によるスキルアップの支援やキャリアコンサルティングによる就職支援を行う、法律（職業能力開発促進法）に基づく『**専門職**』です。



テクノインストラクター
（職業訓練指導員）

テクノインストラクターの魅力

『感謝』される『働きがい』のある仕事

自ら学び成長を続ける『やりがい』のある仕事

訓練受講者の技を向上させ『**未来を切り開く**』仕事

詳しい仕事の内容は裏面をご覧ください！

テクノインストラクター（職業訓練指導員）になるには

指導員免許の取得方法

テクノインストラクターになるには、国家資格である「職業訓練指導員免許（123職種）」を取得しなければなりません。

免許の取得方法は様々ですが、例えば、職種に関連する学科を卒業後、一定期間仕事を体験し、厚生労働大臣が指定する講習を修了することで取得する方法があります。

技能・技術を習得している方は、既にテクノインストラクター候補者です！

詳しくは裏面の図で確認下さい！

テクノインストラクター
（職業訓練指導員）



テクノインストラクターが活躍できる場所

全国の職業能力開発施設（都道府県、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」といいます。）や**技能五輪全国大会での競技委員として**活躍しています。

★ テクノインストラクター（職業訓練指導員）の、仕事風景です ↓↓↓



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

厚生労働省 テクノインストラクター

検索



あしたを拓く人を創る
厚生労働省 人材開発統括官



テクノインストラクター Q & A

Q1 具体的な仕事の内容は？

主な業務は次のとおりです。

- 在職者や求職者などの様々な方を対象としたハロートレーニング（公的職業訓練）で「**技術的な指導**」を行う業務
- 就職やキャリア形成を支援する「**キャリアコンサルティング**」業務
- 民間企業・事業所で働く在職者の「**人材育成・訓練コーディネート**」業務
- 訓練ニーズに沿った「**職業訓練カリキュラム、教科書・教材や訓練技法の開発**」業務

Q2 テクノインストラクターの魅力は？

- 訓練受講者の技術力の向上や就職活動をサポートすることから、日々「**感謝**」され「**働きがい**」があります。
- 技術革新に対応できるよう新たな知識を習得するため、自ら学び成長を続ける「**やりがい**」があります。
- 自ら習得した技能・技術で、訓練受講者の技を向上させて「**未来を切り開く**」希望に満ちています。
- 法律（職業能力開発促進法）に基づく「**専門職**」で、「**安定感**」のある仕事です。

Q3 どこでどれくらいの人働いているの？

- 全国の職業能力開発施設（ポリテクセンター、ポリテクカレッジ、都道府県立技術専門学校、短大校等）で**約4000名**のテクノインストラクターが働いています。指導している内容は、機械、電気、電子情報や建築など、ものづくり関連が中心ですが、介護や情報関係なども行っています。詳しくは「ハロートレーニング」で検索してください。（都道府県では**都道府県職員（専門職・免許職）**、機構では、**職業能力開発職**として勤務します。）

Q4 どうすればなれるの？

- 都道府県、機構等の採用試験に合格すれば、テクノインストラクターとして働くことができます。その際、「**職業訓練指導員免許**」の取得が必要となります。免許の取得方法は下図をご確認いただき、全国の指導員募集情報については、厚生労働省のホームページ（下記）で確認できます。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/shido-in-boshu.html



テクノインストラクター紹介

ポリテクセンター兵庫
ビル管理技術科

神崎啓太郎さん



■ 疑似体験を通じ、
現場で役立つ問題解決力を育む

彼は訓練を行う際、専門的技術・技能を講義形式で教えるだけではなく、現場で発生するトラブルを疑似的に発生させ、その原因の究明から解決方法までを考えてもらう、より実践的な課題解決型の実習を取り入れている。これにより、現場で役立つ問題解決力を養えるため、修了生は現場で自信を持って働くことができ、活躍もできる。

また、訓練教材の開発にも力を注いでいる。平成28年度には、「漏電」をテーマにした教材「チラクルとメガプラグ」を開発。全国のテクノインストラクターが応募する職業訓練教材コンクールで、厚生労働大臣賞（特選）を受賞した。この教材は、訓練生同士がゲーム感覚で漏電箇所を探することができるため、楽しく安全に学ぶことができる。

静岡県経済産業部職業能力開発課（前所属：沼津技術専門学校）

高貝嘉明さん



■ 自らを磨き続けることで、
訓練生とともに成長する

県立技術専門学校は、地域企業の生産現場で活躍する技術者・技能者を育成している。彼は、訓練生がものづくりの面白さと難しさに気付き、自ら考え、試行錯誤することが技術・技能の習得には不可欠であると考えている。このため、指導員が率先して常に学び続ける必要性を感じ、自身も一級技能士（旋盤）に挑戦し取得した。確かな技術・技能と指導力に加え、それらを追求する情熱が「ものづくり」と「人づくり」には不可欠だという。

現在は、県庁で県全体の職業訓練の企画や、新たに開校する短期大学の準備に携わる一方、技能グランプリに出場するなど、短期大学校での「人づくり」に備え、自らを磨き続けている。

図表 職業訓練指導員免許を取得する方法

